

班通信

No. 6



セツブンソウ

令和5年3月7日

さいたま市
岩槻班退職校長会
事務局:090-5826-3329(岡野)

『班通信』に感謝

さいたま市岩槻班退職校長会 会長 新里孝二

通信が手元に届くと、俳人・中村汀女さんの『その日の風、その日の花』という言葉が浮かんできます。中村さんは、この言葉を心して俳句を創作されていたそうです。班通信の編集担当・大河内副会長さんも、その時々『行事の風、行事の花』を感受されたことを原拠に班通信を編纂されているように感じられ、中村さんの言葉がいつも脳裏に浮かんできていました。

行事への案内や活動時の様子、他班との交流や会員の快挙、季節感溢れるコーナー等盛りだくさんの話題が満載の『班通信』。コロナ禍で交流の機会を十分に設定できない厳しい状況下にあつて、班通信が行事等への関心と理解、会員相互の交流と深化の役割を担ってくれました。副会長さんのご苦勞に感謝しつつ班通信を再読し、令和4年度を振り返ってみなくてはと思っています。

現職・退職校長教育推進協議会を開催

2月4日3年ぶりに開催しました。今回は現職側は岩槻中学校の安藤幸子校長が「ICTを効果的に活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の研究」、退職側は大河内哲二会員が「さいたま市のクモ」について発表しました。当日は現職19名、退職22名、計41名の参加があり、発表後に意見交換の場面を設けるなど、新たな取り組みも加え、また安藤校長の発表では途中で逆に参会者に質問が出るなど、大変盛り上がった有意義な協議会になりました。恒例の懇親会は中止になりましたが、次年度も今年の成果を基にさらに充実した会になることを期待します。



令和5年度「定期総会」にご出席ください!

- 1 日時 令和5年4月23日(日) 14時開会
 - 2 会場 さいたま市民会館いわつき 301集會室
- 年度当初で何かとご多用の中、また新たな環境での生活が始まったばかりの方もおいでかと思いますが、休日の午後に開催しますので、是非今から予定に加えていただきご出席ください。

今年もボランティアに参加

～恒例の「まちかど雛めぐり」開催～

今年も2月23日から3月12日まで開かれています。当会が会場当番を行う「江戸から昭和の人形展」は会場を東玉大正館に移動しましたが、今年も役員10名と会員9名が参加して、来館者の接待や案内等の活動しています。本会の参加は平成20年度からで、15年間の長きにわたって続いている恒例事業です。残りの期間はわずかになりましたが、この機会に街中の各会場を散策していただき、更に来年度は是非「会場ボランティア」にもご参加ください。



編集から コロナ禍で会員が一堂に集う事業の中止が続く、会員間が徐々に疎遠になっていると感じました。「会の活動の様子を伝え、会への関心を繋ぎ止めたい」「よし、次の事業は参加するぞ!」と思ってくれる会員を一人でも増やしたい」との思いで、先のことも考えずに手探り状態で発行を始めた「班通信」です。しかし実際には配布の都合で事業報告が中心になりました。安価・省エネで適時に伝達するにはどうするか大きな課題です。また内容が編集からの一方通行に終始しました。今後は会員から編集へ、会員相互の双方向の記事になればと願っています。更に努力を続けます。毎号お読みいただき、また応援やご協力に感謝申し上げます。(大河内記)



訃報 本会幹事 田中秀信氏(72歳)が、2月3日ご逝去されました。生前のご功績に敬意を表し、また会へのご貢献に感謝を申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

季節だより

カタクリ



カタクリは spring ephemerals (早春の妖精・はかなき命)として馴染み深い植物です。関東では雑木林の斜面林床に群生する地域があちこちにありましたが、雑木林の手入れが行われなくなり、笹や常緑樹が茂ると、光不足で急に減少してしまい、岩槻区内ではごく一部に残っているだけです。

林床に日差しが届く3月中旬地中の鱗茎から発芽し、柔らかな2枚の葉を成長させ、3月下旬に開花します。1週間ほどで花は終わり実をつけ、5月下旬には地上部は溶けるように姿を消します。そして地中に残る鱗茎と地表に落下した種子、翌春まで10か月間眠り続けます。このため鱗茎に少量の栄養分しか貯えられず、種子が発芽してから7、8年かけてやっと開花する極めて成長の遅い植物です。

薄紫色の花弁は低温時や夜は下向きで寒さをしのぎ、日が当たり17~20℃になると起きて大きく後ろに反り返ります。すると大きなおしべとめしべがむき出しになります。花弁の奥には濃紫色の輪状のギザギザ模様(蜜標)があり、蜜を吸い花粉を運んでくれる昆虫たちを誘導しています。